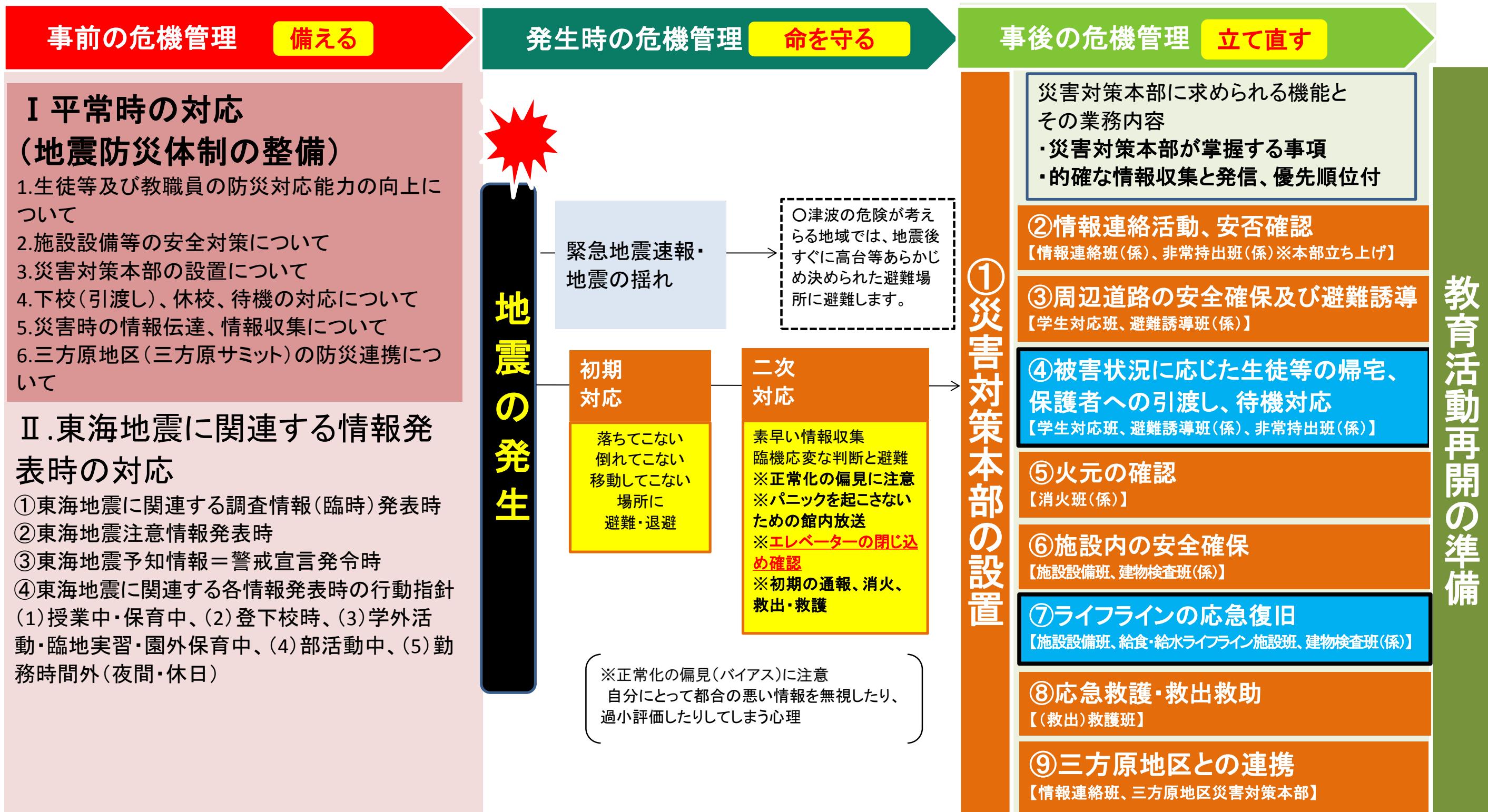


聖隸学園の地震防災対策マニュアルの構成(全体像)



「事前の危機管理」がその後の対応全てにつながります。いつ起こるか分からない地震災害にきちんと備えることが重要です。

※地震発生時には震度が判断できないことから、初期対応の「落ちてこない・倒れてこない・物が移動してこない」場所への避難行動は、震度に関わらず必要です。

※災害対策本部の設置時期については、災害規模や、在校時、在宅時により変わることが考えられます。

※このフローチャートでは、初期対応を揺れが続いている期間、二次対応は揺れが収まってから津波や火災など地震の後に起こる危険から回避するまでの期間としています。

※発生時はマニュアルを見る余裕はありませんが、教職員の適切な判断と指示が必要です。事前に教職員がしっかりと理解しておくことが大切です。